

■「効果の見える治水事業」

□香川県 笠松川（東かがわ市）の砂防事業

『災害関連緊急砂防事業及び砂防激甚災害対策特別緊急事業』

香川県長尾土木事務所長 高口 秀和



【笠松川の被災】

平成16年10月20日、台風23号の接近に伴う非常に激しい雨の影響（最大時間雨量116mm・3時間雨量312mm）で、東かがわ市水主の笠松地区では、笠松川やその他の溪流で多数の土石流が発生し、幸い人的被害は無かったものの、家屋の全壊6棟、半壊1棟、流出3棟、浸水11棟（床上1棟・床下10棟）という大きな被害が発生しました。

【事業概要】

平成16年度災害関連緊急砂防事業で堰堤嵩上げを1基、平成18・19年度砂防激甚災害対策特別緊急事業で堰堤工を2基と溪流保全工680mを整備しました。

これらハード整備以外に土砂災害（特別）警戒区域を県内で最初に指定するなど、ソフト対策にも積極的に取り組んでいます。また、香川県ホームページに土砂災害危険箇所図、土砂災害（特別）警戒区域、砂防情報システム等を掲載し、多くの県民が土砂災害に関する情報を迅速かつ的確に得られるようにしました。

【工事の特色】

当時、既設砂防ダムの捕捉能力を超えた大量の土石流が発生し、左岸の袖部地山を破壊して、下流にまで土砂が流れ出しました。そのため災害関連緊急砂防事業により、既設砂防ダムの嵩上げ工事を施工するとともに、この土石流の流れが従来の河川の流れをそれて直進したことから、住民からの要望も踏まえ、土砂が流下したルートで溪流保全工を整備することしました。また、砂防激甚災害対策特別緊急事業で建設したダムは、ダム中央部が鋼製スリットタイプで土石流・流木の捕捉効果が大きい形式であることが特徴です。なお、工事箇所隣接地に、災害の記憶を風化させないため、「あの日を忘れない」と彫った碑を設置しました。

【おわりに】

管内の砂防激甚災害対策特別緊急事業は、まだ、一部の溪流で工事中であり、平成20年度末までに完了する予定です。災害発生が平成16年度後半であり、予算執行などのため、諸手続き・用地取得等を短期間で行う必要がありました。また、工事発注規模を大きくすることにより事業のスピードアップによる事業効果の早期実現とコスト縮減を図ることが出来ました。



土石流の影響により、1階部分は押し流され、2階部分のみが残った民家。幸いにも住民は避難し、難を逃れた。

笠松川 被災状況



笠松川 鋼製スリットタイプの砂防堰堤 完成写真

談 話 室

□「安全安心のまちをめざして」



東かがわ市 藤井 秀城

東かがわ市は、平成15年4月に引田・白鳥・大内の3町が合併して誕生した人口約3万6千人、総面積153.35km²の香川県の東の玄関都市です。地場産業は、手袋生産が、今年、本市に導入され120年となる伝統を有し、また安戸池でハマチ養殖が初めて成功してから80年目の節目を迎えました。この他、製菓や和三盆糖などの伝統産品を今なお受け継ぐなど、伝統文化と自然環境が調和したまちです。観光スポットでは、引田の古いまち並みに人気があり、引田御三家といわれる旧大庄屋の「日下家」、赤壁の醤油醸造所「岡田家」、酒・醤油業の「佐野家」（旧井筒屋）の家屋敷きが軒を並べ、入り組んだ細い路地や閑静な通りには、年代を経た品格を感じさせられる趣から、多くの観光客が訪れています。

一方、近年の地球温暖化による異常気象の影響から、温暖で降雨量の少ない瀬戸内海特有の気候の本市は、平成16年に多発した台風から甚大な被害を受けました。とりわけ台風16号の襲来時は、大潮の満潮位と重なり、これらの古いまち並みを含む本市の低地部で多数の家屋が、これまで経験したことのない潮位による床上床下浸水等の被害を受けました。

急峻な地形が多い山間部は、過去の被害実態から各所に砂防堰堤が設置されていましたが、台風23号襲来時には最大時間雨量116mmという未曾有の豪雨に見舞われ、笠松・五名地区とその周辺地域では、その砂防堰堤の能力を遥かに凌ぐ土石流が、河川やその他の溪流で発生し、家屋の倒壊や流出・浸水といった甚大な被害が発生しました。

特に、笠松地区では、従来の河流が変わり、大きな岩石を含んだ土石流となって流下し、人的被害は逃れたものの2階建民家の1階部分は土石流と共に流出・崩壊、また、土石の流入・堆積など、被災現場は想像を絶するものがありました。その後、県において砂防激甚災害対策特別緊急事業によるダム建設等が行われて、復興することができましたが、被災者の方の一部には、いまなお住宅の復旧に至っていないケースもあり、改めて、自然災害の猛威と破壊の厳しさを痛感しています。

本市では、この平成16年の大災害を教訓に、「安全で安心なまちづくり」を掲げ、災害復旧と併せて平成17年から毎年9月に、市全域で市民参加の避難訓練を実施するなど、災害時に役立つ防災訓練を実施し、今後に生かせるよう取り組みを行っています。この他、昨年から土砂災害で著しい被害を受けた笠松地区を含めた地区を対象に土砂災害に対する全国統一防災訓練に参加して、防災訓練を実施しているところです。今年6月1日に笠松地区と同様に甚大な被害を受けた五名日下・鈴竹地区の市民を対象に県、警察署、広域消防本部、地元消防団の協力の下、避難訓練及び防災訓練を実施いたしました。

今後も「あの日を忘れずに」を合言葉に継続して、訓練を実施するとともに、安全で安心して暮らせるまちづくりを目指し尽力してまいります。関係機関の更なるご指導、ご助力賜りますようお願い申し上げます。



負傷者搬送訓練の様子



大川広域消防隊員による応急手当の講習